

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

当面する課題として、持続可能な社会づくりに関わる学習活動の在り方について北海道内の市町村における取組の実態を整理し、今後の北海道並びに市町村の生涯学習及び社会教育の振興に寄与することを目的に本調査を実施する。

2 調査の対象

北海道内各市町村教育委員会（179 市町村）

3 調査方法

調査票によるアンケート形式の自記式調査法

4 調査期間

- (1) 調査票調査 平成 30 年 10 月 18 日（木）～11 月 1 日（木）
- (2) 聞き取り調査 平成 31 年 2 月 1 日（金）～28 日（木）

第2章 調査票調査の結果

1 回収率

100.0%（179市町村／179市町村）

2 調査の結果

(1) 単純集計

問1 平成30年度の貴教育委員会の社会教育事業（H30.4月～9月末まで）において、高校生以上の年齢層を対象とした地域づくりの担い手育成につながる事業を行っていますか。

結果

- ・調査の対象とした期間を半年としたため、担い手育成事業の有無については、昨年度の調査を下回った。

「高校生以上を対象とした担い手育成事業の有無」（n=179）

ある	86	48.0%
中学生以下を対象としたものならある	26	14.5%
ない	67	37.4%

問2 問1であると答えた事業について、お答えください。

結果

ア 「事業の総数」 233事業

- ・86市町村から233事業の回答があった。
- ・それぞれの市町村から1から55事業の回答があり、事業実施数に大きな差があることがわかった。

イ 「学びの内容」

- ・項目別に見ると、「行動につながる学び」と「成長・発展に向けた学び」をプログラムに組み入れながら展開している事業が多い。
- ・3つの学びに整理したのを見ると、「行動につながる学び」をプログラムに組み入れた事業が多い。

「学びの内容」（n=233）

	項目に対する回答数	3つの学びに整理した回答数
1 地域を好きになる学び	38	105
2 行動につながる学び	30	164
3 成長・発展に向けた学び	17	141
4 1と2	23	—
5 2と3	80	—
6 1と3	13	—
7 1と2と3	31	—
無回答	1	1

ウ 「学びの形態」

- ・「フィールドワークや実習、実践的な活動」が最も多い。

「学びの形態」(n=233)

1 講演・講義	46
2 ワークショップ	11
3 フィールドワークや実習、実践的な活動	114
4 上記の組み合わせ	61
無回答	1

エ 「対象」

- ・「成人」を対象とした事業が最も多い。

「対象」(n=233)

1 高校生・大学生等	31
2 成人	109
3 高校生以上すべての年代	90
無回答	3

オ 「参加者数」

- ・「30名以上」の参加があった事業が最も多い。

「参加者数」(n=233)

1 10名以下	45
2 11から20名	59
3 21から30名	35
4 30名以上	90
無回答	4

カ 「実施回数」

- ・事業の実施回数は「1回」が最も多く126事業、次いで「3回以上」が95事業であった。

「実施回数」(n=233)

1 1回	125
2 2回	11
3 3回以上	95
無回答	2

キ 「事業の継続性」

- ・「4年以上」続いている事業が183事業と最も多く、次いで「新規事業」の39事業であった。

「事業の継続性」(n=233)

1 新規(1年目)	38
2 2年目	3
3 3年目	7

4 4 年以上	183
無回答	2

ク 「地域活動等主体的な活動へのつながり」

- ・地域の担い手育成事業を実施した結果、住民の主体的な活動につながった事業は、57 事業であった。

「地域活動等主体的な活動へのつながり」(n=233)

ある	57
ない	43
わからない	132
無回答	1

ケ 「様々な主体との連携」

- ・項目全体で見た場合、連携先として最も多いのは「市町村内の団体・個人等」であった。
- ・「講師、ファシリテーターの派遣等」では、「市町村外の団体・個人等」が 31 事業で最も多く、次いで「他部局」の 28 事業であった。

「様々な主体との連携」(n=233)

	他部局	過去の事業の参加者	市町村内の学校	市町村内の団体・個人等	市町村外の学校	市町村外の団体・個人等	他市町村の教育委員会	国の機関	北海道(知事部局)	北海道教育委員会
1 共催	8	1	4	9	1	8	5	2	0	2
2 講師、ファシリテーターの派遣等	28	8	9	24	7	31	7	11	3	6
3 事業への参画(企画・運営等)	13	27	30	39	0	11	6	0	1	2
4 1と2	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0
5 2と3	7	2	6	14	4	2	1	1	0	5
6 1と3	0	1	2	3	0	0	0	0	0	1
7 1と2と3	1	2	3	2	0	0	0	0	0	2
8 その他	4	9	15	8	1	5	4	0	0	1
9 ない	123	128	119	102	166	130	159	162	173	163
無回答	49	55	45	31	54	44	50	56	56	51

何らかの連携がある(1～8の合計)	61	50	70	100	13	59	24	15	4	20
-------------------	----	----	----	-----	----	----	----	----	---	----

問3 問2で「⑧地域活動等主体的な活動へのつながりについて」で「1ある」と答えた事業についてお聞きします。その事業からつながった主体的な活動はどのような活動ですか。その活動内容について、以下の空欄にご記入ください。

結果

- ・50市町村57事業中18市町村の37事業について回答があった。
- ・分野として「まちづくり」に関わる事業がおおく、18市町村中16市町村で事業を行っている。

	事業名	事業からつながった活動	分野
札幌市	・さっぽろ市民カレッジ ・市民講師育成事業	・さっぽろ市民カレッジにおいて、学んだ成果を生かして更なる活動につなげることを意識した事業内容としたことで、修了後も高齢者施設等でコーラスボランティアとして歌を披露する等、ボランティア活動に取り組む受講者や、受講生同士で協力しシングルマザーを支援するNPO法人を立ち上げる等、主体的な活動につながった。 ・市民講師育成事業において育成した講師が中心となって、英語やイタリア語といった語学や、ヨガやダンス等のスポーツを学ぶサークルが複数立ち上がっており、市民の自主的な活動につながっている。	まちづくり
留寿都村	1健康スポーツ教室 2留寿都村豊かな地域づくり女性活動事業	1、健康スポーツ教室の参加者が、数名集まって「健康サークル」を作って、現在も自主的に活動している。 2、留寿都村豊かな地域づくり女性活動事業の会員のうちの数名が小さな団体を作り、月1回程度、住民を集めて、イベントの計画・運営を行っている。(住民から高い評価を得ている。)	健康、まちづくり
岩内町	・地域指導者研修会	絵本の読み聞かせ等を行うイベントの企画・運営を積極的に行っている。	まちづくり、ボランティア
北斗市	・生涯学習講座「英会話講座」	他の社会教育事業にボランティアとして参加協力。	ボランティア
森町	・女性交流	菖蒲園の維持管理	まちづくり
八雲町	・YOU・遊・クラス ・あんどん型山車づくり講習会	YOU・遊・クラス…地域のイベントやお祭りの運営に携わるような活動 山車づくり講習会…学んだ山車づくりの技術を、他の町民や町外の学生にも教え広める活動	まちづくり
長万部町	・アクティブラーニング ・いきいきライフ講座	高校内でまちづくり課題解決などのワークショップ開催に役立った。	まちづくり
江差町	・シニアカレッジ江差学園	地域イベントへの積極的な参加、町内団体との交流・知見の共有、世代間交流の増進、子どもの居場所づくり・家庭教育の増進	まちづくり、家庭教育支援
旭川市	・シニア大学 ・シニア大学院	卒業生が中心となって「シニアの会」を結成し、一般市民向け「まちなか講座」の受付・運営、本市の秋のイベント「食べマルシェ」のごみ分別などのボランティア活動を行っている。	まちづくり、ボランティア
富良野市	・青年活動活性化事業 ・子ども会育成事業(富良野市青少年サークル) ・富良野市ことぶき大学事業 ・ふらのまちづくり未来ラボ事業	サンタの宅急便、みんなでたいようとおそぼう、富良野演劇祭への参加、まぜてフォーラムの開催	まちづくり

北見市	・出前講座「ミント宅配便」事業 ・まなび・こそだて・はぐくみ学級開設事業 ・北見市女性国内研修派遣事業	各種協議会委員などの要職に就くなどさまざまな活動を通してまちづくりに貢献されている。	まちづくり
網走市	・あばしり学 学生 HERO'S ・宇宙の学校 ・子どもと遊ぼうボランティア隊 ・てづくりすと講座 ・網走市寿大学	網走市寿大学では、地域活動への参画が健康に与える影響を学んだことにより、自治会が中心となって大学生生活で学んだことを活かして市内各所へ慰問などや、大正琴や囲碁将棋クラブなどは、市内の事業へ参画し市民へ体験・指導するなどしている。また、個人としても様々な活動へ講師役やスタッフ等多様な形で参画し、学びの循環を形が生まれている。	まちづくり
置戸町	・OKETO GREEN FESTIVAL	町の文化祭への参加、	まちづくり
興部町	・少年少女自然生活体験事業	ボランティア活動	まちづくり
西興部村	・家庭教育ナビゲーション養成講座 ・西興部村地域学講座 ・自然観察会(春・夏・秋)	家庭教育ナビゲーション養成講座に参加された方は、地域内で子育て支援に参画されており保護者との交流も積極的に行っている。地域学講座では本村の豊かな自然環境・野生動物・資源問題について考えを深められ、春から秋に開催している自然観察会にも積極的に参加いただき本村の自然環境保全に努めていただいている。	家庭教育支援 まちづくり
豊頃町	・平成 30 年度生涯学習講座「友遊勉強会研修会」	町内小中学生を対象にした学習サポート	ボランティア
足寄町	・ふるさと足寄100年塾	高齢者同士の交流の場として貴重な学習機会となっている。参加者同士が繋がる事で町内サークル活動やスポーツ活動への参加促進、各自治会活動等で中心的な役割を担っている。	まちづくり
弟子屈町	1 弟子屈高等学校・公民館連携講座 2 公民館ミニコンサート 3 少年の主張弟子屈大会 4 ジュニアリーダーコースHokkaido	1～3では地元の高校生が事業に係わることで高校のPRをすることが出来た。その後、高校生の主体的な「高校PR」に繋がっている。 4は次世代のリーダーを育てるという面で地域事業に影響を与えている。	まちづくり

(2) クロス集計

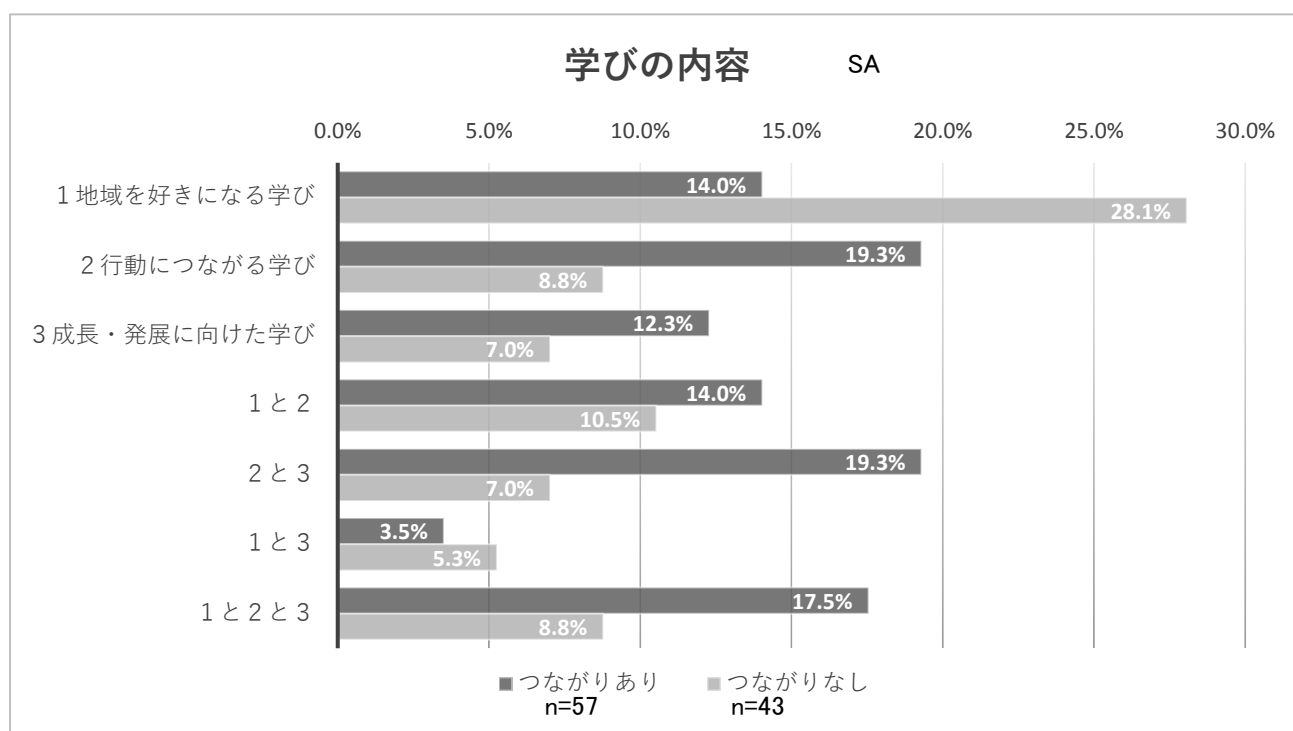
ここでは、問2の項目「地域活動等主体的な活動へのつながり」の回答を「つながりあり」と「つながりなし」に分け、「学びの内容」、「学びの形態」、「参加者数」、「様々な主体との連携」とクロス集計をかけたものについて紹介する。

なお、比較したものは「つながりあり (n=57)」「つながりなし (n=43)」とそれぞれ回答した中での各項目における割合である。分析は、この割合の比較で行った。

また、今回「地域活動等主体的な活動へのつながり」で「わからない」と回答したものはクロス集計から除外した。

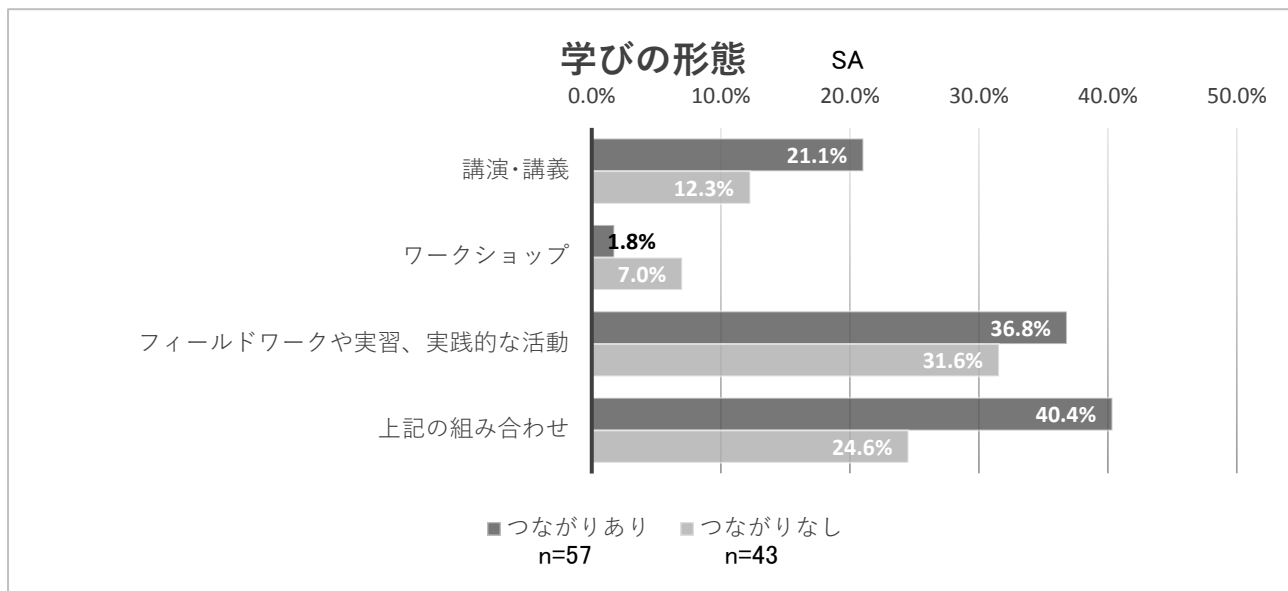
ア 「地域活動等主体的な活動へのつながり」と「学びの内容」のクロス集計

- ・「つながりあり」と「つながりなし」の比較で「つながりあり」の数値が高く差が大きかったのは、「2と3」(12.3ポイント差)。次いで「2行動につながる学び」(10.5ポイント差)であった。
- ・学びの内容に「行動につながる学び」が含まれている項目は、すべての項目で、「つながりあり」の割合が高い。



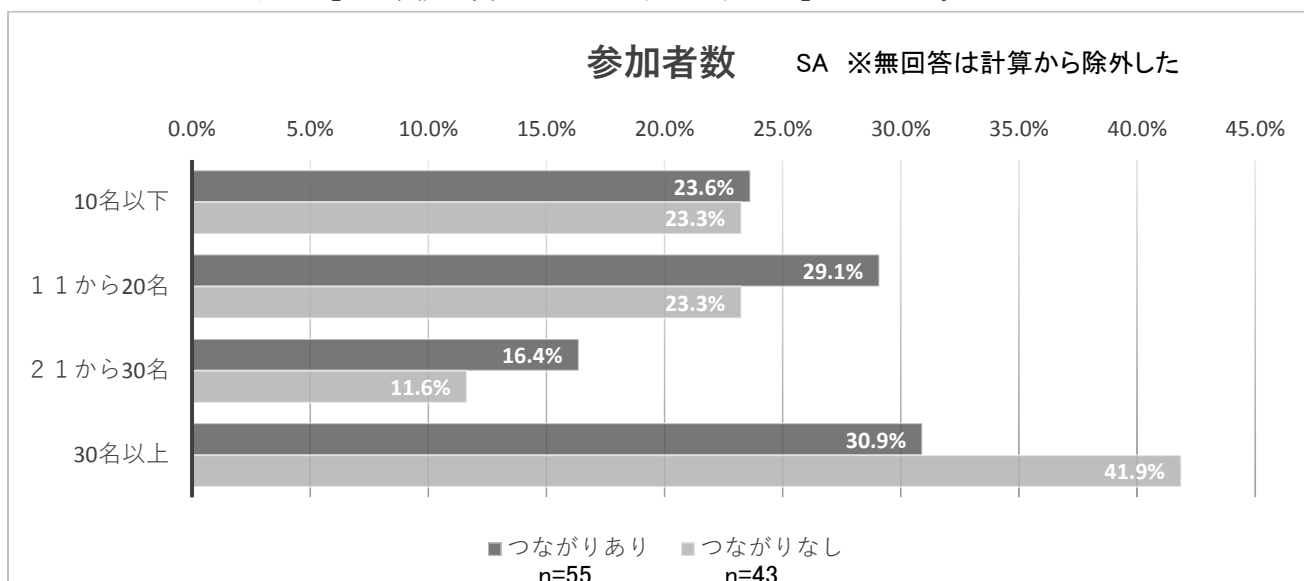
イ 「地域活動等主体的な活動へのつながり」と「学びの形態」のクロス集計

- ・「つながりあり」と「つながりなし」の比較で「つながりあり」の数値が高く差が大きかったのは、「上記の組み合わせ（「講演・講義」「ワークショップ」「フィールドワークや実習、実践的な活動）」（15.8ポイント差）であった。
- ・個別の形態で見ると、「講演・講義」（8.8ポイント差）が「つながりあり」の数値が高く差が大きかった。

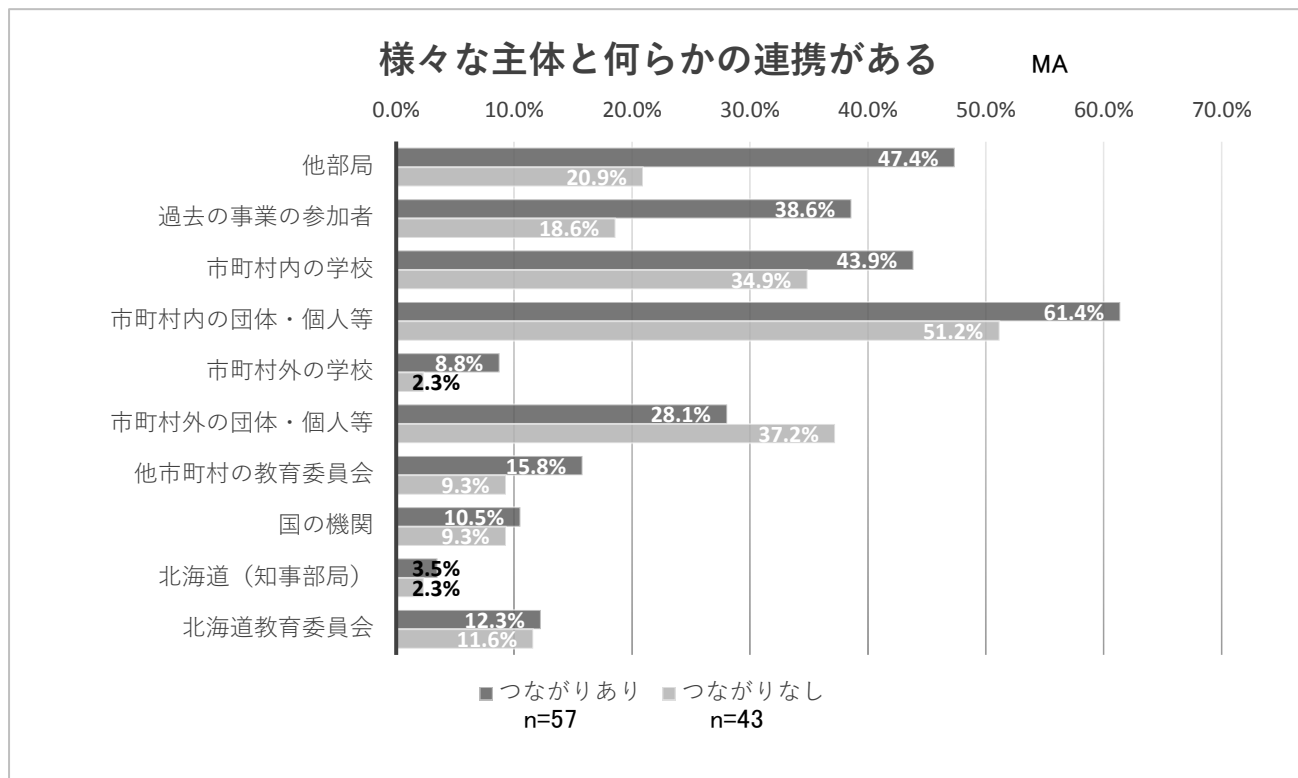


ウ 「地域活動等主体的な活動へのつながり」と「参加者数」のクロス集計

- ・「つながりあり」と「つながりなし」の比較で「つながりあり」の数値が高く差が大きかったのは、「11 から 20 名」（5.8ポイント差）であった。
- ・「つながりなし」が数値が高かったのは、「30 名以上」であった。



エ「地域活動等主体的な活動へのつながり」と「様々な主体と何らかの連携がある」のクロス集計・「つながりあり」と「つながりなし」の比較で「つながりあり」の数値が高く差が大きかったのは、「他部局」（26.5 ポイント差）。次いで「過去の事業の参加者」（20.0 ポイント差）であった。



オ 考察

- ・「学びの内容」のクロス集計の結果から、「地域を好きになる学び」、「行動につながる学び」、「成長・発展につながる学び」を参加者等の状況に合わせてプログラムに盛り込み展開することが「地域活動等主体的な活動へのつながり」を生むと考えられる。特に「行動につながる学び」を事業のプログラムに盛り込むことで、担い手育成事業が効果的に「地域活動等主体的な活動」につながるのではないかな。
- ・「学びの形態」のクロス集計の結果から、「講演・講義」「ワークショップ」「フィールドワークや実習、実践的な活動」を組み合わせることで、担い手育成事業が効果的に「地域活動等主体的な活動」につながるのではないかな。
- ・「参加者数」のクロス集計の結果から、「11 から 20 名」、「21 名から 30 名」で 5 ポイント程度の差が見られたことから、「地域活動等主体的な活動へのつながり」をゴールととらえた場合、概ね 10 から 30 名程度が適当な参加者の規模といえるのではないかな。
- ・「様々な主体と何らかの連携がある」のクロス集計の結果から、「他部局」や「過去の事業の参加者」での差が大きかったことから、市町村内の連携強化を進めながら担い手育成事業を展開することが「地域活動等主体的な活動」を活性化させるといえるのではないかな。